JNFEAニュースレター

Japan Nepal Female Education Association

特定非営利活動法人日本ネパール女性教育協会

2020.7.26　No.29

第 18 期総会が開かれました　山下泰子…… 2

JNFEA 終結に向けて

・100 人のおなご先生養成：JNFEA の目標達成　山下泰子…… 3

・教育里親の皆さまへ　佐伯律子…… 5

・記念誌について　山下泰子…… 6

加藤恒久教育基金の動向　山下泰子…… 6

想い出すこと

・さくら寮をつくる　赤尾建藏…… 8

・さくら寮の夜明け前　磯公美子…… 9

・赴任地訪問を終えて；ネパールの交通事情　袖山正彦…… 12

さくら寮卒業生の赴任した学校（追跡調査から）　山下泰子…… 13

支援団体からの寄稿文

・国際ソロプチミスト大阪―いずみ　会長　北口純子…… 16

・国際ソロプチミスト長浜　会長　平山博子…… 17

・国際ソロプチミスト新潟　会長　小島節子…… 18

Topic & News …… 19

・ボールゲームを Facebook に Up ！（今村美知子）・宮原巍さんお別れの会（新井場貞子）

・宮原巍さんに捧げるヒマラヤ満月コンサート（山下泰子）・Manju さん、結婚おめでとう（今村美知子・新井場貞子）・コロナ禍でのネパールの現状（Manju Dhoju）・WEB 会議（新井場貞子）・解散総会 ・解散記念パーティー開催予定のお知らせ

JNFEA 活動報告 …… 23

追跡調査（その 4）　白柳彰子…… 24

寄付金の記録 (2019 年 5 月～ 2020 年 6 月まで)…… 28

編集後記…… 28

第1期生（2006年～ 2008年）
修学旅行で動物園の象に初めて触って感激！
彼女たちも今は30代

野良仕事も携帯を持って

第18期総会が開催されました

理事長　山下泰子

2020年度の定例総会の開催を、6月28日（日）に予定していましたが、新型コロナ・ウイルスにかかわる政府の緊急事態宣言と東京都の外出自粛要請により、正会員の皆様にお集まりいただくことが不可能となり、やむを得ず郵送による書面審理とさせていただきました。

総会は、定款第22条により、正会員をもって構成されますが、今回は、本協会の動向を周知させていただくため、総会資料そのものは、正会員以外の、賛助会員、里親会員にも配布いたしました。なお、現段階の正会員総数は、217名であり、総会の定足数は、定款第25条により、その4分の1ですから、55名となります。はがきにより返答していただいた正会員数は74名で、総会は、無事に成立しました。以下、総会の議案について、簡単にご説明いたします。

第1号議案　2019年度事業報告書について

配布資料「2019年度事業報告書」にもとづいて、説明を行いました。

本協会の昨年度の主要な事業として、「100名のおなご先生養成」に関連して、第9期生と第10期生の教師給与を支給し、卒業生教師のためのフォローアップ研修会を実施し、赴任地訪問も行いました。とくに、2016年度に開始したJICAプロジェクトが、予定の3年間の事業を終え、2019年2月に、Kapilvastuにおいて、9月には、Patleにおいて、3年間の活動を総括するための研究会を開催しました。

この議案については、賛成73票、反対0票、白票1票で、承認されました。

第2号議案　2019年度の決算報告について

配布資料「2019年度決算報告（貸借対照表と活動計算書)」にもとづいて、説明を行いました。

この決算報告は、すみれ会計事務所・横山千夏税理士により作成されたもので、これを、古宇田亮順監事と宮坂洋子監事に監査していただき、「適正である」とのご判断をいただきました。貸借対照表では、本協会の2019年度末の見掛け上の資産は、「25,029,628円」となっておりますが、これには、加藤恒久教育基金が、「負債」という形で含まれており、さらに「仮払金」と「前払金」が含まれていることから、これらを差し引きますと、本協会の2019年度末の純資産は、「6,749,730円」になり、これが、2020年度の本協会の使用可能な資産になります。

この議案については、賛成73票、反対0票、白票1票で、承認されました。

第3号議案　2020年度事業計画書について

配布資料「2020年度事業計画書」にもとづいて、説明を行いました。

今年度の本協会の主な事業は、第10期生の教師給与を6月まで支払うこと、卒業生教師の政府の正規教師採用試験受験への援助、さらには、卒業生の自主的な運営によるブロック別フォローアップ研修会開催の支援、また、現地理事会の開催やニュースレターの刊行、ホームページの整備などの通常の事業を実施いたします。さらに、2020年度をもって本協会の解散を予定しておりますため、その関連事業の実行が、最大の課題になります。そのために、9月には、ポカラ・プロジェクトの最後の現地理事会を開催する予定です。12月には、解散のための総会を開催し、2021年3月には、記念パーテイの開催を予定しています。また、本協会のこれまでの活動を総括するために、記念誌（A4版、260頁程度）を刊行いたします。

この議案については、賛成73票、反対0票、白票1票で、承認されました。

第4号議案　2020年度活動予算について

配布資料「2020年度活動予算」にもとづいて、説明を行いました。

2020年6月をもって、最後の第10期さくら寮卒業生教師への給与支給が完了いたします。このため、本年6月をもって教育里親制度を閉じることになりました。長年ご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。上記の通りに、本協会の今年度の使用可能な資産は「6,749,730円」です。これに、今年度予定している事業を勘案し、その不足額を、今年度の収入見込みとして計算しました。今年度の活動予算の最大の特徴は、記念誌の作成や、解散のための総会や記念パーテイの開催などの本協会の解散関連の事業に伴う支出になります。

この議案については、賛成73票、反対0票、白票1票で、承認されました。

第５号議案　定款第54条の改正について

配布資料「定款第54条の改正の件」にもとづいて、説明を行いました。

本協会の定款第54条では、本協会が解散するときに、もし、残余資産があれば、本部事務所のある「文京学園（文京学院大学)」に譲渡することになっています。しかし、「ネパールにおける女性教師の養成」という本協会と趣旨を同じくする加藤恒久教育基金が2017年に成立したことから、もしも、残存資産がある場合には、それを、同基金に譲渡できるようにするための改正の提案です。

この議案については、賛成73票、反対0票、白票1票で、承認されました。　　以上

なお、議案とは別に、返信はがきに、JNFEAへの「わたしの想い」を書いていただきました。記念誌に掲載いたしますので、楽しみにしていてください。

―　JNFEA 終結に向けて　―

100人のおなご先生養成―JNFEA の目標達成

理事長 山下　泰子

2005年2月、JNFEAニュースレター創刊号に、私は、「2005年：ネパール遠隔地女性教員養成プロジェクト元年、2020年：100人の遠隔地教員養成プロジェクト完成」と書いていました。

フィリムの学校訪問
ラリグラスの花束で大歓迎を受けて

経過を辿れば、日本ネパール女性教育協会が内閣府から特定非営利活動法人（NPO法人）の認証を受けたのが、2004年2月21日のことでした。同年8月には、カニヤ・キャンパス・ポカラ（KCP）が「10＋2」に教育コースを設置してくれました。そして、2005年8月10日、KCPでは、450人の参加者を迎えて、さくら寮地鎮祭が行われました。8月15日には、カトマンズの日本大使館で草の根無償・人間の安全保障基金授与の調印式がありました。ですから、「2005年：プロジェクト元年」でした。

以後、学生寮の工事は順調に進み、2006年8月6日には、第1期生10人を迎えるさくら寮入寮式典が、800人ものゲストの見守るなか賑やかに挙行されたのでした。

毎年7月には、さくら寮は10人の新入生を迎え、KCPでの2年間の教育がはじまります。私たちが目指したのが、子どもたちを愛し、子どもたちから慕われる壷井榮の『二十四の瞳』の大石久子先生のような「おなご先生」の養成でした。さくら寮では、日本からベテランの先生たちが代わる代わる訪問して、「豊かな人間性を育む教育」を教えました。2年間のKCP教育コースを卒業すると、みんな遠いふるさとの村の小学校の先生になりました。その最初の3年間の教師給料をJNFEAが支援しました。2020年6月、第10期生10人への給料支援が完結します。ですから、「2020年：プロジェクト完成年」なのです。

卒業生は、村で最初の「おなご先生」だったりして、少女たちのロールモデルです。みんな先生という職業が大好きです。JNFEAの支援する3年間の後も、73.2%が先生を続けています。公務員になった人、銀行などで働いている人、自営業の人も加えれば、82.5%が就業しています。子育て中の人たちも、また教職に復帰したいと思っています。

ジャガットの小学校にて
かわいい村の１年生

思えば、このプロジェクトは、本当に恵まれていました。リーマン・ショックや東日本大震災もあったのに、一度も経済的な困難に会うことがありませんでした。偏に総勢126人の里親さんたちと514人もの寄付・寄贈者の皆さんのお蔭です。2015年4月のネパール大地震のときも、短期間に412件737万円もの義捐金をお送りいただき、それをネパールの村々へ運びました。

ネパールという外国でのプロジェクトだったにも拘わらず、一度も困難にぶつかりませんでした。終始ご支援くださったMathema大使ご夫妻、カウンターパートだったBharijoo KCP学長、それにマネージャーのKrishnaさん、寮母のManjuさんをはじめ、すばらしいネパール人の皆さんに支えらえて、このプロジェクトは完成しました。

最後に、熱い想いを持ち続けてくださった大勢の支援者の皆さん、会員・賛助会員・里親・後援者・参与の皆さん、そして、ボランティアで実働を担ってくださった歴代の理事･監事の皆さんに心から感謝します。

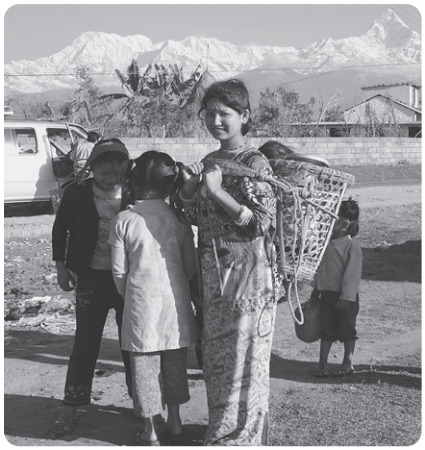
さくら寮開設 10 周年の記念式典に集まった卒業生たち

教育里親の皆さまへ

教育里親担当理事　佐伯　律子

教育里親の皆さまには、長い間、里親として、ご支援をいただきまことにありがとうございました。

当初100名の学生に100名の里親さんをお願いしたいと募集しましたが、果たして100人の応募者がいらっしゃるかしら？と不安でした。最終的に126名の方々にご支援いただき、心より感謝申し上げます。多額の金額をお寄せ下さった方々、中には、年金の中から少しずつですが・・と毎回忘れずに送ってくださった方など、それぞれの事情に応じて、この里親制度に賛同し、ご寄付いただきました。皆さまの心温まる優しいご支援に接するたびに、胸が熱くなる思いでした。


水瓶を運ぶ少女　ポカラにて

そもそも私が、JNFEAにかかわったきっかけは、2005年、山下泰子理事長が、ネパールの教育支援のため、ポカラに寮を建設するプロジェクトで現地訪問された際、同行したことからです。詳しく内容も知らないまま、当時、ユニセフ学校事業部長だった岩谷榮子さん（現JNFEA事務局長）のお誘いを受けたのでした。

日本ユニセフ協会で展示の説明をしている私は、毎朝家族のために水汲みをして重い水瓶を運ぶのが、ネパールの女の子の仕事で、学校にも行けない子どもが多いということが、気にかかっていました。その頃、海外からヒマラヤ登山に訪れた多くの人々が、ネパールの現状に接し、子どもの支援、学校の建設など、資金等の援助をしていましたが、山が多く、交通網が発達していないネパールでは、その支援の輪がなかなか山村の山奥まで届かず、世界でも支援の難しい国の一つと言われていました。「そんなネパールにどうして支援を？」と、私は思わず山下理事長に尋ねました。すると「ネパールへトレッキングに行ったとき、山村の貧しい暮らしにショックを受け、学校へ行きたくても行けない女の子たちを見て、日本のような教員養成をネパールで実現させたいと思ったの。」と熱心に語られたことが忘れられません。

実際同行して訪問した村の小学校では、日本の支援で作られたトイレは鍵がかかっていて、自由に使用できないなど、衛生面も含めていろいろな場面で考えさせられることが多々あり、ぜひ私も何らかの形でネパールの子どもたちのために協力したいと心に決めたのでした。

その後、JNFEAで教育里親担当になり、私もネパールへ出かけて行って、支援を受ける学生や村の学校、子どもたちの生活の様子など事細かく、里親の皆さまに、お知らせしたいと思っていました。しかし、あいにく体調を崩し、頻繁にネパールへ行くことを断念せざるを得なくなりました。担当にもかかわらず、熱心に支援してくださる皆さまに、私自身から様子をお伝えすることができなくなり、大変申し訳なく思っております。

第２期生・第３期生と共に

遠い山村からポカラに来た少女たちは、希望に胸膨らませて勉学に励み、初めて体験する様々なことを吸収しようとするその精神・姿はたくましく、私たちもやりがいがありました。教育里親の皆さまのお蔭で滞りなく、学生たちは教師として巣立っていき、今では村の小学校で堂々と子どもたちに教えられるようになりました。これからもそれぞれの立場で、これまでの経験を活かしネパールの子どもたちのために、大いに活躍してほしいと願っています。

私からも無事担当を終えることができますことを、心よりお礼申し上げます。

記念誌について

理事長　山下　泰子

JNFEAの終結にあたり、私たちはいま、総力をあげて日本ネパール女性教育協会の全体像を記念誌としてまとめています。本編210頁と資料編50頁くらいになる予定です。

◆その中心は、JNFEA の育てた第1期生から第10期生まで100人の「おなご先生」のプロフィールです。1人1頁ずつ A4の大判の紙面いっぱいに、彼女たちの先生としての成果と課題、現職と意見が語られています。

◆「さくら寮の1年」は、寮母の Manju さんが書いています。7月にはじまるカニヤ・キャンパス・ポカラの学年歴は、興味深いです。ネパールには、たくさんのお祭りがあります。さくら寮では、それらを積極的に取り入れて楽しみました。さくら寮ならではのお誕生日会、卒業式や修学旅行も、卒業生たちの思い出になっていることでしょう。

◆「さくら寮での豊かな人間性を育む教育」については､それぞれの担当者が書いています。さくら寮では、情操教育、表現教育、人権教育などなど、ネパールのカリキュラムにないことを日本から派遣された皆さんが教えました。卒業生たちは、さくら寮で学んだことをしっかりふるさとの村の小学校で活かしています。

◆「フォローアップ研修」ダサイン休暇に､毎年さくら寮でフォローアップ研修をしてきました。卒業生は、遠いふるさとの村から懐かしいポカラに帰ってきました。友だちとの絆を確かめ合い、新しい教育技術を学ぶ絶好の機会でした。これからは、ブロック別に自分たちで研修を続けます。

◆「卒業生赴任地訪問」さくら寮生は、ネパールの遠隔地から集まってきましたから、ふるさとの村で教職に就いた彼女たちを訪問するのは、容易なことではありません。でも、JNFEA では、すべての卒業生の赴任校を１校ずつ訪問しました。何日も歩いて訪ねた JNFEA メンバーを迎えて、卒業生がどんなに感激したか想像に余りあります。

◆「日本への留学」第1期生から第6期生まで、3年間の教職義務を果たした後、各学年1人ずつ6人が日本留学を果たしました。文京学院大学のご厚意で、授業料・寮費免除、奨学金まで用意していただいて学んだものは、さぞ大きかったに違いありません。

◆「JICA 草の根技術協力事業」2つのパイロット校での3年間の継続した活動は、しっかりした成果を生みました。「みんな仲良しの学校づくり」、「楽しく学ぶ」教授法などがネパールの学校に根付いてくれることでしょう。

◆「加藤恒久教育基金」は、さくら寮モデルを各地のフィーダーホステルに広げるチャンスを与えてくださいました。これからも基金の事業は続きます。

◆「JNFEA の主な行事」「チャリティ・ツアー」「JNFEA 受賞と支援団体の記録」皆さんに支えられてここまで来たことに改めて感謝しながら、まとめました。

◆「エピローグ」会員の皆さんの「わたしの想い」で、本編を締めくくります。

皆さま、どうぞご期待ください。

加藤恒久教育基金の動向

理事長　山下　泰子

2016年3月18日の加藤恒久さんのご逝去から、あっという間に4年が過ぎました。奥様の糸子様から多額の遺贈を受け、2017年に加藤恒久教育基金を創設してから、この3年間に2つのフィーダーホステル（公立の女子学生寮、以下、「FH」）をさくら寮モデルの女性教師養成所にすることができました。

【カピルバストゥ FH】

◆2018年5月17日、カピルバストゥ FH の所在地であるバンガンガ市の Mangal Prasad Tharu 市長、FH を管轄する Ram Prasad Bhandari バンガンガ高校校長と山下泰子 JNFEA 理事長の間で、覚書を締結し、カピルバストゥ FH を女性教師養成所化することが決まりました。カピルバストゥ FH は、さくら寮生6人の

出身寮です。赤尾建蔵 AAF 理事長（竹中大工道具館館長）の設計、菅沼一夫さんのマネジメントでリフォーム工事が行われました。①20 人の寮生に対して使えるトイレが 1 か所しかありませんでしたので、新設を含めて3か所のトイレを使えるようにしました。②キッチンを明るくしました。③ダイニングルームの床を貼り、明るくしました。④木製の手摺に洗濯物を干していたので、これを止めるため、外に物干し場を新設しました。これらによって、生活・勉学環境がかなり改善されました。

◆カピルバストゥ FH では、9年生20人を入寮させ、12年生まで4年間教育するというシステムをとっています。2019年のバンガンガ高校「10＋2」の卒業生のうち、次の11人が加藤教育基金によって、小学校の先生になりました。

Ganga Pariyar：
Suryodaya
Basic School

Radhika BK：
Janachetana
Basic School

Rejina Sing：
Janachetana
Basic School

Puja BC：
Durga Bhavani
Basic School

Mamata Tharu：
Durga Bhavani
Basic School

Sabita Chhetri：
Balkalyan Basic
School

Tulsirani Tharu:
Adarsha Basic
School

Ramita
Chaudhari:
Banganga
Secondary
School

Jyoti Basaula：
Manakamara
Basic School

Shanti
Chaudhari：
Ram Basic
School

Pooja Poudel：
Gyanodaya
Basic School

【ジュムラ FH】

◆2018年5月19日、ジュムラ FH の所在地であるチャンダンナハ市の Kantika Sainjuwal 市長、Min Prasad Sharma カルナリ高校校長と山下泰子 JNFEA 理事長が覚書を締結し、ジュムラ FH を女性教師養成所化することが決まりました。Kantika 市長が、FH の卒業生だったこともあり、スムーズに交渉ができました。

◆ジュムラ FH は、さくら寮生8人の出身寮ですが、築40年で老朽化が進んでいましたので、大幅なリフォームが必要でした。ここも、赤尾建蔵 AAF 理事長の設計、菅沼一夫さんの協力でリフォームが行われました。①2階のテラスを明るいミーティングルームに改造、②トイレ付シャワールームの新設、③キッチンのリフォーム、④外壁の塗装、⑤机・椅子25セットが AAF から寄贈され、ミーティングルームに設置されました。この寮に、シャワーがついたのも、机・椅子が入ったのも、実にはじめてのことでした。何と40年間、寮生は、ベッドに腹ばいになって勉強していたのです。

◆ジュムラ・フィーダーホステルに住み、カルナリ高校「10＋2」教育コースを卒業した4人が、2019年から、加藤教育基金によって村の小学校の先生になりました。ジュムラでは、今後、毎年数人が先生になっていくことになります。4人の皆さんをご紹介します。

Dhanalaxmi
Shahi:
Kanaka
Sundari
Secondary
School

Fulmaya Thapa:
Karnali
Secondary
School

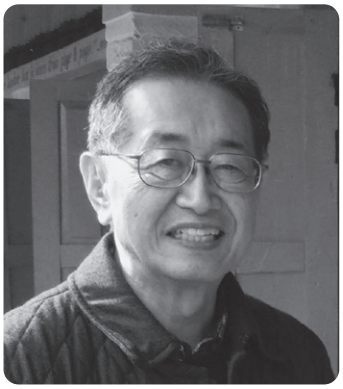
Shyanu
Chaulagain:
Karnali
Secondary
School

Namita Budha:
Kedarnath
Basic School

－　想い出すこと　－

さくら寮をつくる

AAF理事長　赤尾　建藏



山下泰子先生との出会いは、まったくの偶然でした。2002年3月、バンコクのドンムアン空港でネパールへ向かう乗り継ぎ便の待合でのことです。にぎやかな女性のグループがあり、その楽しそうな様子に興味を引かれて思わず声をお掛けしたところ、ネパールではまだ少ない女性の教師を育てる活動しているのだとお話しくださいました。

我々 AAF（Asian Architecture Friendship）の活動とも大いに共通するところがありましたので、我々の活動内容について紹介させていただき、これから建設する学校の図面など提案書をお見せしましたら、山下先生からは、教育者を育てることはできるが、どのように学校を設計、施工管理すればよいか悩んでいるとのお言葉をいただきました。我々にしてみればその逆で、学校を建設することができても、教育者を集める伝手もなく育てることもできずに困っておりましたので、お互いに協力していけばどうかと話が盛り上がりました。

後日、私が当時館長を勤めていた竹中大工道具館（神戸市中央区）まで、山下先生と日本ネパール女性教育協会の方たちがお越しくださいました。様々お話をお聞きするうちに女性教師育成のための寮建設の重要性を強く感じましたので、我々も協力させていただきたいとお答えしたのが始まりとなりました。

さくら寮の下を流れるセティ・コーラ

建設にあたっては、日本ネパール女性教育協会が建設資金をご負担くださいました。いつも苦労していた資金集めに奔走せずに済んだため、品質にこだわること・快適性の追求・コスト軽減ということだけに注力することでき、精神的にも恵まれたプロジェクトになったのは、我々にとって非常に有難いことでした。

建設計画にあたっては、ネパール第２の都市、ポカラにあるカニヤ・キャンパスの敷地内に建てること、20名が宿泊と食事ができる規模という要望をいただきました。建設場所はそれほど広くはありませんでしたが、眼下にセティ川が流れ、開放感のある所です。

建物は、地上3階建、1階は、ラウンジ・食堂・キッチン・寮母室・洗濯室・倉庫があり、２階と３階は、寮生室各５室とトイレ・シャワー室からなります。寮生室は、１室2名ですが、プライバシーが保てるよう中央に仕切壁を設けました。また、一般的にネパールの建物は室内が暗いのですが、この寮は明るく開放感のある建物となるよう工夫しました。

現地で施工業者を選ぶための工事現場の視察では、コンクリートの充填不足やスラブ下の配筋露出、型枠精度など施工精度があまりに悪く、驚くことばかりでした。結果としてかなり綿密な施工管理をしなければならず、工事で重要な型枠組立、配筋、コンクリート打設の際には、必ず現地に赴き、型枠検査、配筋検査やセメント・砂利・砂の割合から練り方、コンクリート充填の仕方などもきめ細かく指導いたしました。

そんななか一番の思い出は、完成が近づいた頃に、１階のラウンジ、食堂の窓が大きすぎるので防犯上良くない、窓を小さくするか、格子を入れて欲しいという要望が出てきた時のことです。前述したように、こ

の寮は、明るく開放的な空間を目指して設計したものです。防犯意識はもちろん大切ですが、格子の嵌まった窓はまるで檻の中にいるような気持ちになりますし、せっかく開放的で眺望の良いこの寮の特徴も失われてしまいます。お互いの想いをうまく折衷せねばならかったこの件では、間に立っていただいた山下先生に大変なご苦労をおかけしてしまいました。

さくら寮の正面に聳えるアンナプルナⅡ峰

解決策が思いつかず行き詰っていたある日、大きな扉にガラスが入っていることに気付かず、ネパール人スタッフが外に出ようとしてガラスを割ってしまう出来事がありました。それがきっかけで防犯フィルムを貼ることを思い付き、日本から持ち込むことにしたのですが、防犯フィルムに馴染みのないネパール空港では不審物扱いで入国を止められてしまいました。苦心しながら説明し、ようやく許可を得た時のことも、今では良い思い出です。

このプロジェクトをお手伝いさせていただいたご縁から、AAFが学校建設したゴルカ郡の卒業生延べ11名がこの寮で2年を過ごした後にブッダスクールの先生となり、さらに3年の実践を積んで地元周辺の学校へ赴任いたしました。皆、各校で活躍しているなか、母校となったブッダスクールでは、現在3名が教鞭をとっております。ゴルカの北部に位置し自給自足で貧しい地域のため、学びの場としては小学校しかなく、教師も不足していた僻地には今、中学校や高校もできました。子どもたちは、勉強ができる喜びを笑顔にして、我々に返してくれます。

さくら寮１階の明るいラウンジでお勉強

初めに申し上げた通り、すべてはバンコクの空港で思いがけずご縁を賜れたことから始まりました。お蔭さまで、我々の活動も大きく前進することができました。

山下泰子先生、並びに日本ネパール女性教育協会の方々へ心より感謝申し上げ、結びとさせていただきます。

さくら寮の夜明け

正会員　磯　公美子

10年以上も経つと時系列には不安もありますが、今のJNFEAの華々しい活動は皆さん良く知っておられますが、さくら寮が始まった頃を知る人は少ないと思います。さくら寮の運営と管理のノウハウを司った人は、一人の日本人と4人のネパール人の女性たちです。

2006年7月のポカラは、雨が多い毎日でした。新井場貞子さん、友松史子さん（スーパーバイザー）、私の3人でさくら寮開設準備のためレイクサイドのホテルに逗留していました。友松さんは、半年前から、ネパール人と付き合うためのノウハウを得るべく、当地の孤児院で就業していました。私たちは、毎朝「風の旅行社」のパソコンで日本からのメールをチェックし、バスでナディプールのカニヤ・キャンパスまで通いました。

当時はパソコンの通信の準備が整わず、「風の旅行社」さんのご厚意で使わせて頂いたり、町のサイバーショップから日本へ連絡しました。時にはFAXや直接電話もしましたが、それも町のサイバーショップからでした。

朝はカニヤ・キャンパスで校長のBharijoo氏と面会し、様々な問題を話しあいました。キャンパスを横切ってさくら寮の工事現場に向かう途中には、製材所があります。のぞいてみると、まだ家具の木材は製材されず、本当に8月の開校まで間に合うのかと心配になりました。7月半ばすぎても、工事ははかどらず、友松さんの心配はひどくなるばかりでした。Bharijoo校長は、毎日仕事の合間にさくら寮を見に来てくれました。

7月も終わりになる頃、やっと晴天が続くようになり、工事も進んできたものの、まだ1階のロビーと食堂にはガラスも入らず、そのため窓から雨が入り床に溜まっておりました。友松さんは、毎日工事現場の責任者をせかし、いつPタイルが貼れるのか、ガラスは、床のペンキ塗りはいつかなど、尋ねていました。7月末、やっとガラスが入り床も張られロビーのソファーも入りました。

友松さん（向かって右）と筆者

建物の完成が見えてきた頃、カニヤ・キャンパスのMs. Thapa（家庭科の先生）、友松さんと私の３人は、寮生の生活必需品を町に買い出しに出かけました。寝具（ふとん、シーツ、シーツの予備、枕、枕カバー）、なべ、調理器具、食器など。土地勘のあるThapa先生の案内で、同じ品物を置いている店を2, 3か所まわり、値段を比較して当然値切りもしました。生活用品の買い物は、午前から午後3時ごろまで2日間行いました。Thapa先生は、疲れから身体を悪くしたそうです。友松さんも体調をくずし、どうなるのかと心配しました。お布団は生地を決め、綿をどれくらい入れるのかから始まり、それを寮生の分、寮母の分とゲストルームのベッド5台分が出来上がりました。まださくら寮を使用できないために、カニヤ・キャンパスの一室をかりて保管しました。

そうしている内に、第1期目の入寮希望者の連絡が、次々とBharijoo校長の所に届き、7月14日、選考委員会が開かれました。出席者は、Bharijoo校長、大木神父様、友松スーパーバイザー、それと私でした。会場は、神父様の自宅でした。希望者の申請書をBharijoo校長が読み上げ、神父様は、父親の職業などの項目、友松スーパーバイザーは、申請者のSLCの成績などのチェック。10名と補欠を決定。Bharijoo校長は、ブックに会議の内容と10名の氏名を記帳し、出席者がサインをしました。新聞に入寮者名を告知すると、次々と入寮予定者がさくら寮に到着します。ある学生は父親同伴、ある学生は村の若者が付き添って来ます。女子の一人旅は難しいようでした。

3、4日もかかって到着した彼女たちは、長旅で疲れたのか、ロビーのソファーに横たわって寝てしまう人もいました。成績の良いある学生は、すでに上級学校が決まっていて、さくら寮にするかどうするかと迷っていましたが、結局さくら寮に入ることになりました。学費、寮費も無料、毎月の学用品補助もあるさくら寮は、抜群の好条件です。友松さんは、入寮して来た学生を数名ずつ連れて、カニヤ・キャンパスの制服を作りに、バザールの洋服店に行きました。学生たちは、初めて見るにぎやかなバザールの店を見て大はしゃぎしていました。

寮の運営は、日本人のスーパーバイザー友松さんとネパール人の寮母Sangitaさんの2名でスタートしました。Sangitaさんは、さくら寮の近所に住んでいて通いで勤務することになりました。友松さんは、さくら寮の１階に部屋が用意され、24時間寮生と一緒に暮らすことになりました。

10名がそろった日、友松さんは、2つのグループに分け、さくら寮での学生たちの目標を、ＫＪ法を使い話し合いをさせ、模造紙にまとめ発表させました。私は、会社の研修でＫＪ法を知っていたので、一つのグループで発表する人を学生たちに選ばせて傍で見守っていました。友松さんは、次々と寮生をリードして、模造

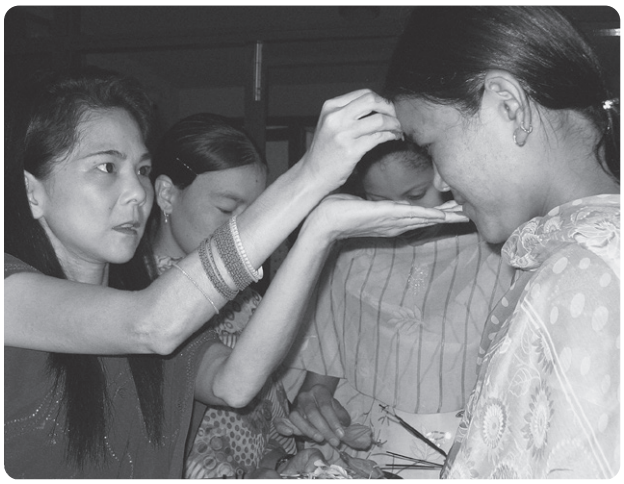
紙に円グラフによる一日のスケジュールを作り、グループ分けによる掃除の当番、炊事の当番を決め発表していきました。さくら寮の大きな特徴として、自分たちの生活の場は自分たちで掃除する、自分たちの食べるものは自分たちで調理する、そしてシャワー後の髪の毛などは、次に使う人のことを考えて自分で始末する、など生活面での細かな注意事項を学生に徹底させました。

学生たちの健康診断は、さくら寮の下を流れるセティ川の向こうにあるインド系のマニプル病院です。友松さんは、学生を伴ってマニプル病院に連れていきました。その後も、高熱をだした学生や健康上問題が出た学生をそこに連れて行くことになりました。

スーパーバイザーの友松さんは、さくら寮開始から２年間よく務めました。毎月の行動記録、会計報告をきちんと送ってきました。生活習慣や言葉の違う生徒たちとの24時間一緒の生活。十分に機能しない建物や設備の不備。“水が出ない、足りない”、“電気がない、電気釜が使えない”、“メールができない”・・・日本の本部との連絡のギャップ・・・この2年間、彼女にとって、大きなストレスがかかったのではないでしょうか。

友松さんがスーパーバイザーになって2年と数か月。職務終了となり彼女が寮を離れる日、不穏な雰囲気で彼女は、大木神父様が運転する車に乗り込みました。少量の荷物を積み車が走り出す時、私は「引き継ぐことはないの？」「これでは、あなたが居た2年間の仕事は何も残らないわよ」と言いました。彼女はティカで盛り上がった額から汗まじりの赤い液体を流し、まるでパンチされたような顔を私に向けたまま車は出て行きました。

1週間が過ぎたある日､友松さんが元気に「こんにちは」と寮に入って来ました。脇に分厚い（キングファイルで10cmぐらい）ファイルを抱えていました。「これ､さくら寮のマニュアルです」と私に手渡しました。開くと英語で書かれてありました｡やっぱり友松さんだ。と、うれしくなりました。すぐにBharijoo校長に報告すると「コピーを下さい」と言われたので一部をお渡ししました。



ティカで祝福

次の寮母は、Kobitaさん、次がAnjuさん、そして一番長く務めたのが、その妹のManjuさんです。

友松さんが作ったマニュアルは、その後さくら寮が終了するまでAnju、Manju寮母に引き継がれ活用されました。余談になりますが、そのマニュアルの中には、ネパール社会の女性のお祭りや、寮内の誕生会の詳細もありました。誕生日祝いには、ケーキを買ってきて、お祝いするということをしたのも、彼女です。家庭や友人たちと誕生会なんて経験したことがない学生たちは､非常に楽しみにしておりました｡私も一度それに立ち会ったことがありますが、寮母が本人にティカを授け、本人から皆にケーキのかけらを口に入れ、次に相手が本人の口へ入れると、全員が行うのです。

Anju さん

さくら寮は、順調に10年間で100名の卒業生を輩出し、最初の2年間、厳しく清掃や団体生活を指導されたお蔭で､さくら寮は今も清潔で美しく残りました。Anjuさん、Manjuさん姉妹の生活面での指導も良かったと思います。遠隔地から来た学生が、ポカラのさくら寮で近代的な電化製品にかこまれ、水洗トイレやシャワーなど村とは格段の違いを体験したことは、これからのネパールの生活の向上に繋がって行くことでしょう。

色々なことがあり、様々なことが起こり、その当時の寮母さんにとって大変だったことは多々ありましたが、それでもスーパーバイザーの友松さんが作っ

たマニュアルと個々の規則は10年間、保たれました。その後の寮母さんは、このマニュアルをよりどころに運営しました。Anjuさん、Manjuさん姉妹の個人的努力と親身な指導が大いに貢献したことは間違いありません。

赴任地訪問を終えて；ネパールの交通事情

理事　袖山　正彦

ネパールに初めて行ってびっくりしたのは、信号機のない道路を、車を避けながら人々が途中で止まることなく横断する姿を見たときである。コツは、ドライバーも歩行者も一定の速度を保ちながら歩くことである。また、日本製の小型タクシーが街にあふれ、定員４人乗りの車に６～７人乗ることもある。車検制度もないため、窓や座席の傷んでいる車も、平気で走っている。

屋根まで満載

卒業生の赴任地訪問に初めて夜間長距離バスを利用して、Doti郡のSaralaさん（第１期生）の所に訪問した時の様子を紹介する。

2008年10月、フォローアップ研修会終了後、袖山、岩谷理事、Krishnaさん、Saralaさん４名で夜間長距離バスを利用して訪問した。バスは、Pokhara午後１時30分発、Kailali郡Atariyaへ翌日午前７時到着予定便である。夜行長距離バスで定員40人の所、60人以上の老若男女が乗車して通路まであふれ、夜行バスなのに座席は保証されていない。また、普段ネパールでは、バスの時刻表はあるが、バスは満員にならないと、なかなか発車しない。しかし、今回は定刻通り出発した。所要時間17時間30分の長旅であるが、運転手１名、男性車掌１名の2名の体制で、運転手がお腹がすけば食事、眠くなれば仮眠で止まる。すべて、運転手任せである。出発して1時間、車に慣れていない女性や子どもの車酔いが始まり、胃酸の臭いがバスの中を充満して、具合の悪くない人まで嘔吐が始まった。午後8時、ドライブ・イン（屋台もどき）で夕食、小休止後出発。バスの中はイルミネーションで飾られ、運転手は、眠気防止のために大音響の音楽を流し始めた。乗客も一緒に大合唱だが、さすがに午後0時を過ぎると静かになった。バスは凸凹のハイウエーを走るため、立ち席の人は通路に座り、座席は乗り心地も悪く、何回も飛び跳ね舌をかみ切りそうになりながら、Atariyaに到着した。

それから４日後、無事訪問を済ませ、帰りの夜間長距離バスで事件は起こった。今度は、乗客は全員座席があった。定刻午後１時30分に出発して、２時間くらいたった時、バスは畑の真ん中で停車した。トイレ・タイムかと思ったが、なかなか出発しない。理由は、前日交通事故が発生、子どもが死亡したため、住民が怒って道路を封鎖し、地元警察が間に入って調整しているという交通ストの情報が入ってきた。2～3時間くらいで解決すると思っていたが、丸2日たっても解決せず、バスの中に留められた。バスは、窓が壊れていた。10月のタライ平原は日中、熱いが、夜は冷気が入って寒く震え上がった。乗客の中に子どもが数人いたが、ほとんど持参の水だけで泣くこともなく耐えていた。他の車の運転手たちも、スト首謀者に対し殺気立った様子もなく、落ち着いて行動していたのには感心した。ネパールのハイウエーは、迂回が少ないため動けない。2日目の朝、運転手が、機転を利かせ、病人が発生したので通行できるようスト首謀者と交渉して、村の間道から脱出した。翌朝ポカラに到着したが、さくら寮で夕方まで爆睡した。その後、赴任地訪問で多くのトラブルがあったが、騒がず、慌てず、何ごとも「No　Problem」で受け入れるようになった。

さくら寮卒業生の赴任した学校（追跡調査から）

理事長　山下　泰子

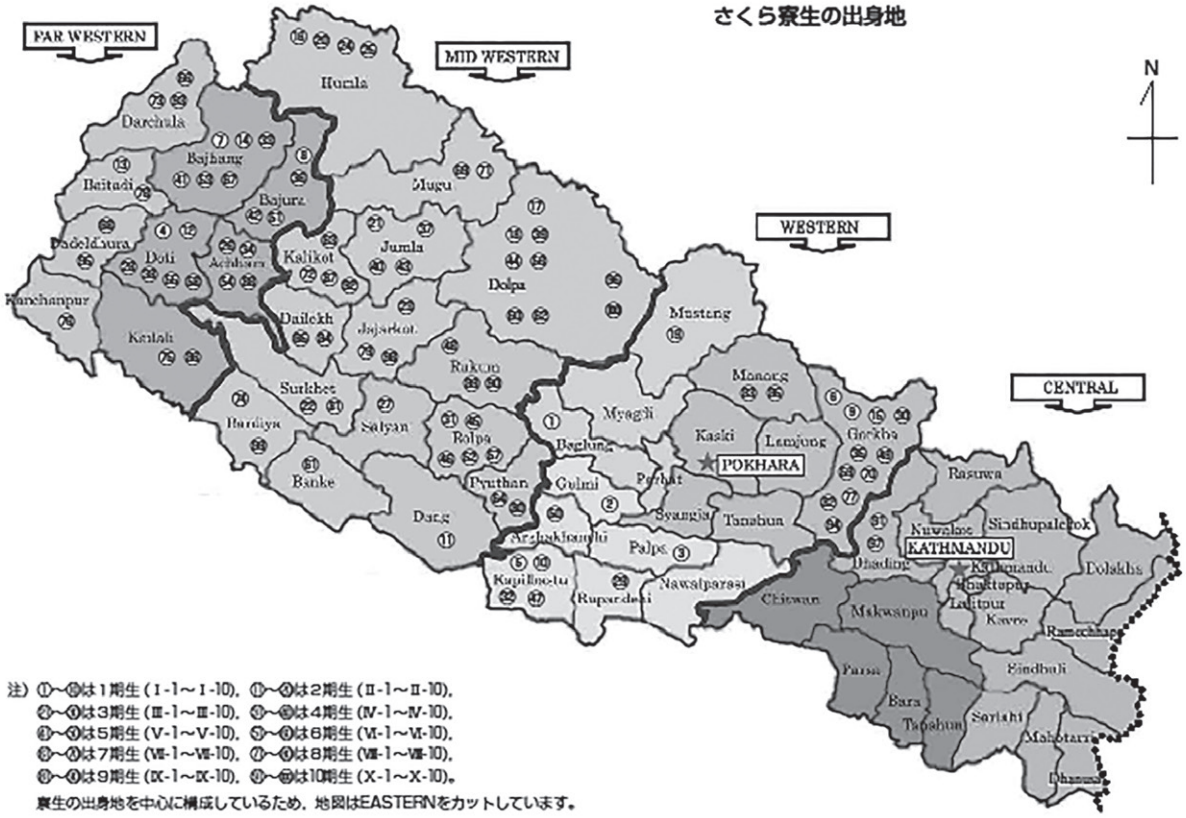
【はじめに】

私たちは、2016年7月から2019年1月にかけて、さくら寮卒業生の追跡調査を実施しました。質問の設計は、山下泰子がいたしました。実際の調査は、さくら寮寮母のManju Dhojuさんが電話で直接聴き取り調査をしました。電話の電波が届かないところもあり、なかなか大変な作業でした。また、新井場貞子JNFEA副理事長が、フォローアップ研修に参加した卒業生に書面でアンケート調査した部分もあります。これらは、ネパール語で行われましたので、Manjuさんが英語にしてくれました。それを白柳彰子JNFEA理事が、日本語にして整理してくださいました。図表をつくってくださったのも、白柳さんです。

追跡調査の結果は、ニュースレターの巻末に一覧表にして2期ずつ5回連載し、JNFEA記念誌に「さくら寮卒業生の記録」として一人一人のプロフィールを掲載します。追跡調査の中で、さくら寮卒業生の赴任した学校については、紙数の関係で記念誌に分析が載りませんでしたので、ここにご紹介いたします。

原則として、さくら寮卒業生は、それぞれのふるさとの村の公立小学校に赴任しました。さくら寮に応募する際、卒業後3年間教師として就業する約束を校長先生からいただいていましたので、赴任校は自分の母校であることが多いという特徴があります。卒業生は、恩師に囲まれて教師としての第1歩を踏み出すことになります。

地図は、さくら寮卒業生の赴任した学校の所在地（本人の出身地）です。これらの1校１校を、JNFEAのメンバーが訪問しました。この赴任校訪問は、大変な労力と危険を伴いましたが、ベテランのJNFEAメンバーの訪問は、卒業生を励ますことになり、現地の学校のレベルアップにつながったと思います。そのすべてにマネージャー兼通訳としてKrishna Khatiwadaさんが、同行してくださいました。感謝のほかありません。



注）①～⑩は1期生（I-1～I-10）、⑪～⑳は2期生（II-1～II-10）、
㉑～㉚は3期生（III-1～III-10）、㉛～㊵は4期生（IV-1～IV-10）、
㊶～㊿は5期生（V-1～V-10）、(51)～(60)は6期生（VI-1～VI-10）、
(61)～(70)は7期生（VII-1～VII-10）、(71)～(80)は8期生（VIII-1～VIII-10）、
(81)～(90)は9期生（IX-1～IX-10）、(91)～(100)は10期生（X-1～X-10）。
寮生の出身地を中心に構成しているため、地図はEASTERNをカットしています。

【ネパールの学校制度】

ネパールの学校制度は、2016年の教育基本法によって、基礎学校8年（従来の小学校5年＋中学校3年）、高等学校4年（従来の高校2年＋［10＋2］2年）、大学4年（従来は3年）、大学院修士課程2年、博士課程3年になりました。そのうち、基礎教育の８年間が、義務教育になりました。実際の学校は、もっとも小規模な村の分教場のような3年制の学校、小学校だけの5年制の学校、中学までである8年制の学校、高校までである10年制の学校があります。中学校は小学校を含んでおり、高校は小学校と中学校を含んでいます。

ネパールでは、公立学校の教育環境が劣悪なため、かなり辺鄙な村にも私立学校があることが多く、親たちは、無理をしても男の子は私立学校に、女の子はお金のかからない公立学校にやりたがる傾向があります。JNFEAが目指したのは、公立学校のレベルアップですから、さくら寮卒業生のJNFEA支援3年間の勤務校は、すべて公立小学校です。

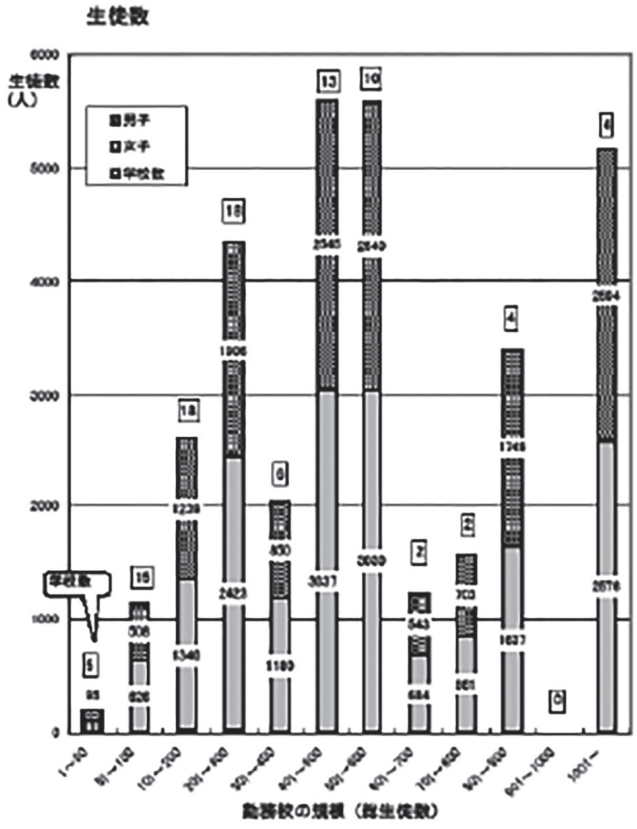
【卒業生の勤務校の生徒数】

●集計表　勤務校の規模（生徒数）

勤務校の規模（総生徒数）

勤務校の規模（総生徒数）	学校数	生徒数	
		女子	男子
1~50	5	110	95
51~100	15	626	508
101~200	18	1,340	1,239
201~300	18	2,423	1,906
301~400	6	1,180	850
401~500	13	3,037	2,545
501~600	10	3,030	2,540
601~700	2	684	543
701~800	2	861	703
801~900	4	1,637	1,749
901~1000	0	0	0
1001~	4	2,576	2,594
全体	97	17,504	15,272

●グラフ　勤務校の規模（生徒数）



生徒数1 ～ 50人の5校は、3年制の分教場と思われます。こういうところこそ、さくら寮卒業生の出番です。校長先生は土地の言葉が分からず、地元出身のさくら寮卒業生教師1人で3学年を教えていた事例もありました。勤務校の規模（総生徒数）の分布が多いのが、51 ～ 100人,101 ～ 200人,201 ～ 300人,401 ～ 500人,501 ～ 600人のランクです。村の学校の平均的な規模が、このあたりだと思われます。

生徒数801 ～ 900人,1001人以上の大規模校を除いて、すべての規模の学校で女子の人数が男子より多いのは、男子が私立学校に行くためです。大規模校で男子が多いのは、高校課程に女子が少ないためです。問題は、公表されている生徒数は、登録人数であって、実際の常時登校する生徒者数を表していないことです。学校への予算配分が生徒数によることから、各校はできるだけ生徒数を多く登録するという傾向があります。

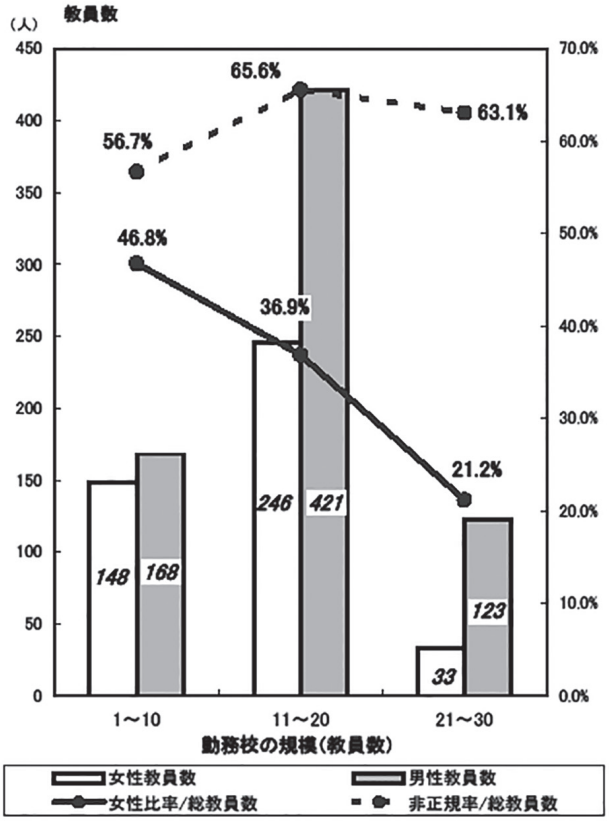
【卒業生の勤務校の教員数】

●集計表　勤務校の教員（女性教員比率、非正規教員比率）

勤務校の規模（総教員数）

勤務校の規模（総教員数）	女性教員数	男性教員数	女性比率/総教員数	非正規率/総教員数
1～10	148	168	46.8%	56.7%
11～20	246	421	36.9%	65.6%
21～30	33	123	21.2%	63.1%
全体	427	712	37.5%	62.9%

●グラフ　勤務校の教員（女性教員比率、非正規教員比率）



SLC（高等学校卒業資格試験）に合格し、さらにポカラで2年間勉強して故郷に帰ったさくら寮卒業生は、村では尊敬の的です。村ではじめて誕生した「おなご先生」の場合も、少なくありません。また、村で日常的に使われる言葉は、部族語であって、これが分からないと低学年の児童を教えることができません。私たちが赴任校訪問に行ったマナスルの麓の部落ビヒでは、現地語の分かる教師が居ないため、学校は無人でした。先生たちは、自分の村に帰ってしまい、その村の36人の子どもたちは、家の周辺で手伝いをしたり、遊んだりしていました。

さくら寮では、初等教育の重要性に鑑み、小学校教師の養成に取り組みました。地域の学校は、従来通りの小学校5年、中学校3年の枠組みで運営されているケースが多く、さくら寮卒業生は、おおむね小学校、または小学校付属の幼稚園で勤務しています。

女性教員比率は、教員数の多寡にかかわらず、いずれも男性教員比率を下回っています。教員数10人以下:46.8%,11 ～ 20人:36.9%,21 ～ 30人：21.2%です。教員数の多い学校は高校まである学校で、上級学年になるほど、女性教員が少ないという現象が表れています。

ネパールでは、公立学校の教員給料がすべて国または地方公共団体から支払われるわけではありません。

国または地方公共団体から支払われるのではない教員を非正規とすれば、教員数10人以下の学校：56.7%,11～20人の学校:65.6%,21～30人の学校：63.1%が、非正規雇用です。つまり、公立学校の教員の6割以上が非正規雇用で、政府雇用の教員の5割にも満たない低額の給料をコミュニティから支払われているのです。一度、正規雇用になれば、定年までその身分と地位が保障されるため、正規教員の方が教育に不熱心な場面もよく見受けられます。さくら寮卒業生も、教員の質の問題と合わせて、待遇の格差是正が喫緊の課題であると述べています。

「村の少女が全員通学できるようにするために」「さくら寮で学んだ豊かな人間性を育む教育の活用」「ネパールの最重要課題」などに対するさくら寮卒業生の回答は、記念誌でご覧ください。

（本稿は、世界人権問題研究センター『研究紀要』第25号（2020年）掲載の拙稿の一部に加筆しました。）

－　支援団体からの寄稿文　－

下着を送り続けて10年

国際ソロプチミスト大阪―いずみ　会長　北口　純子

国際ソロプチミスト大阪―いずみは、今年の6月で満30年を迎えます。新型コロナ・ウイルスの感染拡大のために、お祝いの会も開催できず、山下先生にもお越しいただく予定でしたから、非常に残念であります。

山下先生とのお付合いは、クラブ20周年の約1年前に東京でお目にかかり、ネパールの実情を聞かせていただいたことに始まります。その帰路に20周年の記念寄付として何ができるか？お手伝いすることがあるか？と、一緒に出掛けた仲間と話し合いました。そこで閃いたのが、ネパールへ生理用下着を届けるということでした。先生からお聞きしたチャウパディの習慣には驚き、これは何かできることがある、と思いました。日本の生理用品の開発は優れていますし、材質も海外の製品よりは遙かに良いと思い、先生方が現地へ行かれるときに、運んでいただきたいとお願いしました。

国際ソロプチミスト大阪－いずみの活動方針は、継続して、しっかり結果を残すことであります。生理用下着を贈るという取り組みは、毎年続けてきましたし、併せて女性教師養成のための費用と寄付も続けてきました。私たちの活動は、他のクラブの目に止まるようになり、「国際ソロプチミスト大阪―なにわ」から協力を申し込まれ、一緒に続けてきました。

協会の女性教師養成目標数100人も達成されて、今後は新たな形になるかと思いますが、私たちソロプチミストの活動方針「女性と女児の生活向上」を守り、ネパールの女性が安心安全な生活を送れるようにサポートできたらと願っております。

ネパール山村の少女に教育を
女性教師養成プロジェクトに出会って15年

国際ソロプチミスト長浜　会長　平山　博子

私たち国際ソロプチミスト長浜が、JNFEAにご縁を戴きましたきっかけは、2005年12月の当クラブの例会で、長浜市の隣の伊吹町で、お灸のもぐさ製造販売の会社を経営されている押谷幸次郎氏の卓話「ネパールの子どもたち」をお聞きしたことでした。押谷様は、ネパールに自生するヨモギからもぐさを作り、現地の人たちに指導し、鍼灸師養成学院の設立に協力されたり、所属されている奉仕団体のメンバーの方たちとともに、ネパールの小・中学校の支援活動を行っておられるネパールに通じておられる方でした。

当時、SI長浜は、何か国際的なご奉仕をと模索していた時でしたので、押谷様からポカラの会の倉光誠一先生をご紹介いただき、倉光先生のお知り合いの大木章次郎神父様に連絡をとっていただきました。私たちソロプチミストは、“世界中の女性と女児の生活の向上”を目指している女性の奉仕団体であることをお伝えしたところ、JNFEAの山下泰子理事長をご紹介下さいました。こうして、皆様のおかげでJNFEAに出会うことができました。ちょうどその時は、2006年8月、さくら寮が完成し、第1期の入学生10名が入寮された時でした。早速、私たちは、６月に開催したチャリティバザー収益金の中から里親支援をさせていただきました。

2年後の2008年5月29日、第1期生10名の卒業式に、クラブから3名が出席致しました。ネパールに着いたその日は、ネパールが王政から共和制に変わる記念すべき日でした。カトマンズから西へ200㎞、ポカラはペワ湖とアンナプルナ連峰の眺めの素晴らしい町でした。卒業式の日､美しく飾りつけられたさくら寮､“歓迎”の日本語の文字とともに卒業生、在校生が迎えて下さいました。卒業証書を手に卒業生は、故郷の村に帰って、おなご先生として子どもたちに教えるという夢に向かって、目を輝かせ話していた姿を思い出しております。来賓として参列しておられた大木神父さま、シスター川岡さまにもお会いでき、障害児学校、保育園を訪問致しました。

2010年3月、私たちSI長浜の認証20周年記念式典には、山下泰子理事長、岩谷栄子事務局長にご臨席頂き、支援金を贈呈させていただきました。2010年には、さくら寮寮母のManjuさんが、山下理事長と、2013年には第2期生のLalmaya Budhaさんが、新井場副理事長と長浜までお越し下さり、さくら寮のDVD、ネパールの故郷や学校の紙芝居やお話、ネパール・ダンス、長浜祭博物館での舞伎衣装を着ての写真撮影など、楽しい思い出となっています。

2017年5月に第10期生10名の方が卒業され、10年間で100名のおなご先生の養成、という大きな目標が達成されました。本当におめでとうございます。そして、彼女たちが故郷で女性教師として活躍する3年間の給料の支援も、今年2020年6月には終了とお聞きしています。

SI長浜は、さくら寮が完成した年にJNFEAとご縁ができ、おなご先生100人の養成プロジェクトに参加出来ましたことは、クラブにとりましても大きな喜びでございます。心より感謝申し上げます。

SI長浜は、今期認証30周年を迎え、3月17日に記念式典を予定し、山下理事長にもご臨席頂くことになっていましたが、コロナ・ウイルス感染拡大のため止む無く中止と致しました。5月26日には、記念事業として山下理事長の講演会、“ネパール山村の少女に教育を　おなご先生100人養成”を計画していましたが、延期とさせていただきました。

JNFEAの皆様のネパールへの熱い情熱と行動力と､故郷の村で､おなご先生となった彼女たちの努力とで、ネパールの女性の教育そして女性の地位が今後徐々に向上していくものと確信しております。

おなご先生100名プロジェクト終了にあたり

国際ソロプチミスト新潟　会長　小島　節子

国際ソロプチミストは、「Best for Women」、「SOROPTIMIST・女性にとって最良」をモットーにした世界規模の女性の団体です。社会的・経済的エンパワーメントをもたらすプログラムを通じて、女性と女児の生活を向上させるという活動を行っています。

＊ネパールにおける女性の地位向上のために、女性の教育環境を改善する・・・・・さくら寮の設立。

＊さくら寮での100名のおなご先生の養成。

という山下泰子先生のご活動計画を知り、喜んで参加させていただきました。

女性の地位と生活の向上という目標が同じということもありました。

“教育”を受けられることこそ、すべてのはじまりと思っています。

女性の地位が低いネパールで、まず100名のおなご先生を養成。そのために環境を整えて教育の場をつくる。そこで養成された100名が、教師になったり、公務員になったり、生まれた村にもどって、周囲の人を教育したり、またその教わったことを他の人につたえていく。ネズミ算式にさくら寮発の考え方、教えが広がっていくと思っています。虐げられた環境で生活している女性にとって考えて行動することは、自身の思考回路に無かったと思います。さくら寮発、意識の高いおなご先生の存在が目に見えないところにも、これから徐々に浸透していくのではないでしょうか？

彼女たちおなご先生のこれからの活躍を期待し見守りたいと思います。

日本に生活している私たちには考えられない女性蔑視、虐待、差別、凌辱が、まだ現実として存在する世界があるのも事実です。

ネパールにおいて、意識の高いおなご先生を育て上げるというプロジェクトに取り組む過程のご苦労は、私たちには計り知れないものがあったと、拝察いたします。それを成し遂げられたプロジェクトの皆々様に国際ソロプチミスト新潟会員一同は、敬意をもって、エールを送らせていただきます。そして、ほんの片隅でしたが、参加させていただきましたことを感謝申し上げ、貴協会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。

Topics & News

ボールゲームを Facebook に Up ！

理事　今村　美知子

2016年から３年間、KapilvastuのJana Chetana Basic School で、ボールゲームを通じて、「楽しい」体育教育の紹介に取り組んできました。このボールゲームをやったことで、子どもたちは大きく成長し、教師たちも沢山のことを学ぶことができました。

2020年の3月1日に、この学校は、自主的に近隣の学校の教師たちを呼んで、全学年のボールゲームの様子を見ていただき、参加した他校の教師たちとミーティングも行ったという報告が、私のところにありました。14校の先生方が参加してくださり、大変すばらしい感想をお寄せくださったとのことでした。

ゲーム初めの挨拶

そこで、これで終わってしまってはもったいないと思い、子どもたちのボールゲームの様子とともに、Jana Chetana Basic Schoolの先生方にこの３年間の成果をお話しいただいて、Facebookに載せてみたらどうかと考えました。JNFEAのネパール語版のFacebookがあるので、そこに載せれば、さくら寮の卒業生を初めとするネパールの教師たちも見ることができるだろうと考えました。早速Jana Chetana Basic Schoolの先生方に協力をお願いして、１本のビデオを作りました。それを、Facebookに、この度Up致しました。（JICA海外青年協力隊で、ボールゲームの指導もお手伝いしてくださった加藤泰紀さんにビデオ編集等々をお願いしました。）

転がしドッチボール

https://youtu.be/RDWkvONJPeI

このURLにアクセスしてみてください。元気な子どもたちのボールゲームを見ることができます。教師たちもとても素敵な発言をしてくれていますが、ネパール語ですので、紙面の関係で少しですが紹介させていただきます。

教師のミーティング

- ボールゲームを行ったことで、チームで協力して、話し合ったり、ルールを守ったり、仲間を助けたりするようになった。
- 勉強に集中するようになった。
- 教師同士もよく話し合うようになった。教師と子どもとの関係も良くなった。
- 教育は、見ているだけ、聞くだけではなく、子どもたちが活動することが、大切とわかった。
- 学校に来なかった子どもたちが、登校するようになった。

・このボールゲームは、ずっと継続して行っている。
・沢山の他の学校から、視察に来ている。どんどん広めていきたい。

Facebookを見て、卒業生からの反応もありました。みんなに見てもらって、このボールゲームが広まってほしいと願っています。

宮原巍さんお別れの会

副理事長　新井場　貞子

「ヒマラヤのドン・キホーテ」と慕われた故宮原巍さんのお別れ会が、2020年２月８日、アルカディア市ヶ谷私学会館（東京）で開催されました。

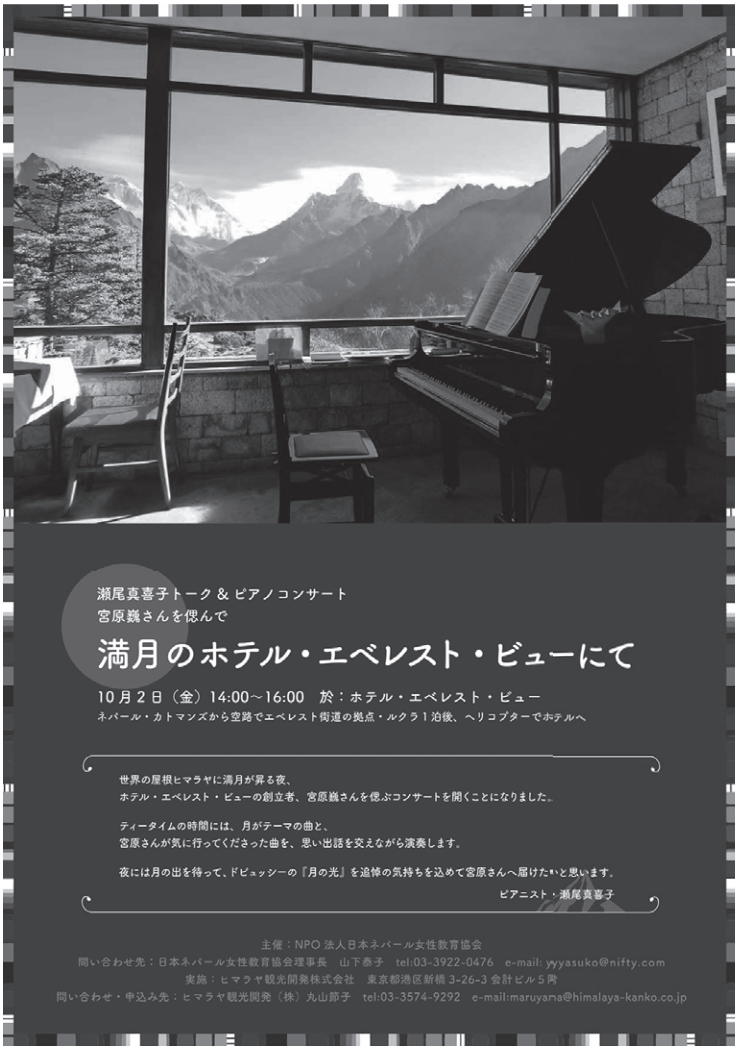
娘のソニアさんの父の思い出を語るごあいさつに続き、参会者がネパール・ヒマラヤに一生を捧げた宮原さんの思い出、数々のエピソードを語り、会場全体がかつての宮原さんの情熱につつまれたような雰囲気でした。JNFEAも宮原さんにいろいろお世話になりました（ニュースレター28号に掲載）。

会場には、かつて宮原さんとの熱い思い出を共有する400名近くがお集まりでした。

宮原巍さんに捧げるヒマラヤ満月コンサート

理事長　山下　泰子

宮原巍さんは、2019年11月28日、愛娘のソニアさんに見守られて、シャンボチェの丘から愛してやまないヒマラヤの空に昇っていかれました。雲一つない真っ青な秋の空にエベレストが神々しいばかりに輝き、クムジュンのラマ僧の読経が続いていました。ここシャンボチェの丘は、青春の日、宮原さんが、ホテル・エベレスト・ビューをつくり、自らブルドーザーを運転して飛行場を造成したところ。宮原さんの人生がここにあると言っても過言ではないでしょう。



私たちは、満月のホテル・エベレスト・ビューで、宮原さんを偲ぶコンサートをしようとしています。瀬尾真喜子さんが、ドビッシーの「月の光」を宮原さんの魂に捧げます。私たち皆の想いが届きますように！

上記の文章は、「ヒマラヤ満月ピアノコンサートin ホテル・エベレスト・ビュー」のチラシに私が書いた文章です。瀬尾真喜子さんのトーク＆コンサートの美しいプログラムとともに、宮原さんに捧げる想いを共有してください。

ご参加をお待ちしています。

・ツアー開催予定日：2021年4月23日（金）
〜4月30日（金）（成田発着、8日間）
（コロナ禍のため、左記のチラシ中の開催予定日を変更しています。）
：旅行代金432,000円（予価）

・実施：ヒマラヤ観光開発株式会社・担当：丸山節子さん
（新型コロナウィルスの感染の影響もありますので、まず、お問い合わせください。）
・TEL: 03-3574-9292・E-mail：maruyama@himalayakanko.co.jp

Congratulations ！ ❤ Manju さん

さくら寮生みんなから愛されている、さくら寮の寮母だったManjuさんが、6月25日に結婚することになりました。

さくら寮に行くと、必ずManjuさんが出迎えてくれるこの安心感、ずっとさくら寮を守ってくれていました。心から感謝しております。

ネパールも新型コロナ・ウイルスの影響で、3月よりステイホームを強いられていました。でも、ポカラのあるカスキ郡は、早めに制限が緩和されたので、ご両家のみでの結婚式を決めたとのことです。

すぐにでもポカラに行って一緒にお祝いをしたいところですが・・・。今は無理ですね。残念です。

長くお付き合いを続けているお二人です。お似合いのお二人ですね。きっと素敵な家庭を築くことでしょう。これからは、お二人の人生を楽しんでほしいと思っています。どうぞお幸せに❤（今村美知子）

Manju さんが結婚しました！

さくら寮の寮母やポカラでの事務局をお願いしている Manju さんが、６月 25 日結婚しました。ネパール独特のカースト制度などに阻まれ、また、JNFEA の仕事に熱中するということも加わり、結婚の実現が、はばまれていました。このほど、両親も納得してめでたく結婚にこぎつけました。赤い優雅なサリー、（結婚した女性は赤い色の服を着ます）、額に赤い Puja、とても美しいです。卒業したさくら寮生がどんどん結婚し、子どもが生まれたというニュースを聞きながら、この仕事が好きといって生徒たちの世話を長い間続けてくれました。

なんてきれいな Manju さんでしょう。おめでとう。（新井場貞子）

Manju さんの手にはメンディーが描かれています

※メンディーとは結婚式や特別の時に、「ヘナ」とよばれる植物の粉を少量の水で溶かし、手や足に模様を描くものです。花嫁さんの最大のお洒落です。

コロナ禍でのネパールの現状

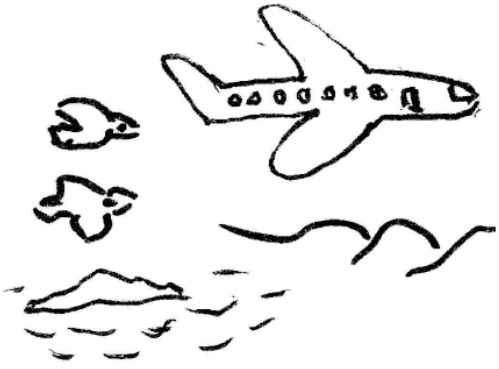
現地マネージャー　Manju　Dhoju

新型コロナ・ウイルス（COVID-19）の世界的大流行で影響を受けた国はネパールだけではありません。中国の武漢で12月に発見されたコロナ・ウイルスのため、全世界が危険な時期にあります。人から人へと急速に広がるその能力のために、世界のすべての人々の間では、社会的な距離（ソーシャル・ディスタンス）を保つのが重要な方策となっています。ロックダウンは、ソーシャル・ディスタンスを完璧に保ち、COVID-19の伝染を防ぐ最良の方法です。ネパール政府は、3月24日にロックダウンを宣言し、その影響が多くの分野で見られます。ネパールの経済は、全国ロックダウンの宣言直後から下落を始めています。国の教育、旅行、およびその他の企業分野が、コロナ・ウイルスの影響を受けています。学校は閉鎖され、ビジネスハブは閉鎖され、道路は静かになり、すべての市民は、パンデミックから自分自身と国を守るために家の中にとどまっています。

【日常生活】

ロックダウンのため、全国のすべての人々の日常生活が一変し、誰もが家族と一緒に家の中に滞在しています。このパンデミックのため、通常、家の外で仕事をしている人も、外出できません。一日中働き、その収入で夕食を食べる人にとっては、危機的状況です。建設労働者や配達人は、困難に直面しています。誰もが決まった仕事を持ち、明日を生きるために働いているのです。このパンデミックにより、彼らは、仕事もなく、家の中にとどまっているばかりです。

【旅行産業】



ネパールは、世界のトレッキングの中心地です。エベレスト・ベースキャンプ・トレッキング、アンナプルナ・サーキット・トレッキングなど、トレッキングや登山をするため多くの旅行者がここに来ます。この世界的なパンデミックにもっとも大きな影響を受けたのは、旅行業界です。まず、すべての海外旅行が停止され、つづいて国内旅行も。すでに家を出発していた人も、なじみのない場所に留められます。ポカラやムスタンなどネパールの美しい場所への旅行、そしてトレッキング、登山、遠征など、ホリデーシーズンの具体的な計画は、誰もが持っていました。しかし、外国人は、すでにネパールに来るのをやめ、旅行業界は、これまで以上に困難な状況にあります。国民所得の主な源泉の1つが、もっとも危機的な状況にあるのです。最良の収入源の1つが閉鎖されたため、国の経済全体が落ち込んでいます。「Visit Nepal 2020」のキャンペーンは、3月初めにキャンセルされました。これは、政府による今年の後半の計画に確実に影響します。

【教育】

学校、カレッジ、大学は封鎖され、学生や教師は、家に閉じ込められています。いまは教育部門にとって重要な時期です。試験が行われ、答案がチェックされ、高等教育への進学・入学につながる結果が得られたはずです。このすべてが一時停止し、誰もが困難な状態にあります。試験の準備をしている学生は、パニック状態で、いつ試験が行われるのか、そして進行中の状態に自分はどう対処するべきなのかを考えています。当局は、この部門の各作業をどのように完了するか対応を迫られています。彼らは、まもなく、COVID-19と戦うための優れたアイデアを考え出すでしょう。

【ビジネス・エリア】

コロナ・ウイルスの感染を防ぐため、現在、すべての企業エリアとビジネスハブは、閉鎖されています。人々が同じ場所に長期間集まるビジネス・エリアは、このタイプの病気に対して脆弱です。さらにビジネス・エ

リアの状態は国全体の経済を決定するので、長期間閉鎖することは良くありません。

【工業地域】

この状況は、工業地域での製品の生産と供給を妨げています。カトマンズ、ポカラ、ヘトウダ、ナラヤンガートなどのトップ工業地帯は、政府の意思決定どおりに閉鎖されています。ルールや規制を厳密に遵守することにより、工業地域の運営がスムーズになれば、食品の供給やその他の物資の供給がうまくできるようになるでしょう。

WEB 会議

JNFEAの理事たちも、いよいよネット会議を開くことになりました。パソコンでメールや文章を書く以外の利用に不安を示していた理事たちも、いよいよネットで会議を開くことに到達しました。学校ではオンライン授業、会社では在宅勤務 やWeb会議など、この新型コロナに対応してコンピューターをフル活用することが 勧められています。

JNFEA の定例総会は 開催することはできず、はがきで 皆さんのご意見を聞くと言う旧来の方法で 実施いたしました。理事会も、メールで意見を聞くというかたちでした。

理事の中にはコンピューターに詳しい人もいます。その一人、岩谷理事が中心となって、色々あるアプリの中の一つのZoomを使って会議を開くことにしました。参加する人たちは、自分のコンピューターをたちあげ、決められたIDでその会議の中に参加していくわけです。これまでに2回実施しましたが、それぞれの映像を見ながら会話ができるわけです。先だっての6月1日のZoom会議では、ネパールのManjuさんや、Sujataさんも参加し、この6月に結婚するManjuさんの話題で盛り上がり、さらに参加者の 連れ合いとの出会いや若き日の話題に発展し、ほんすじの会議はともかく、楽しいZoom会議となりました 。

（新井場貞子）

解散総会・解散記念パーティー開催予定のお知らせ

本協会は、2021年3月31日をもって、NPO 法人としてのすべての活動を終了いたします。そのため2020年12月6日（日）に、文京学院大学サロン・ド・ブンキョウで法定の解散総会を、2021年3月26日（金）、旧岩崎庭園のシダレザクラが咲く頃、国際文化会館（港区六本木）にて解散記念パーティーを開催予定です。多くの皆さまのご参加をお待ちいたします。

（別途ご連絡申し上げます）

JNFEA活動報告

2020年

1月
- ・6日　JNFEA　記念誌執筆・編集作業
- ・9日　ニュースレター編集会議　二子玉川

2月
- ・1日　ニュースレター No28 発送　大泉資料室

3月
- ・29日　第17期第5回理事会　新型コロナウイルス対策のためメール開催

5月
- ・3日　第18期第1回理事会　新型コロナウイルス対策のためメール開催
- ・9日　会計監査

6月
- ・1日　ニュースレター編集会議
- ・28日　第18期総会 新型コロナウイルス対策のため郵送による書面議決

卒業生の追跡調査報告（その 4）（第 7 期生、第 8 期生）

さくら寮卒業生の追跡調査

No.	氏名	写真	生年月日	現住所	結婚（子どもの数）	現職	おなご先生の努力と成果		現在の関心事、そのほか
							女子の出席状況や親への働きかけ	さくら寮の教育の活用と成果	
61	Aarti Poudel		1996/3/4	Parbat	既婚 (1人)	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：全員が登校している。	・活用：パネルシアターを教えた。 ・成果：子どもたちはいろいろな動物や色を見て喜んだ。 ・課題：困難はなかった。	教員採用試験に向けて一生懸命勉強中。
62	Asmita Bohora		1996/5/18	Dolpa	未婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：全員が登校している。	・活用：パネルシアターを教えた。 ・成果：子どもたちは喜び、よい効果があった。彼らは色や動物を見分けられるようになった。 ・課題：校長や同僚が全くサポートしてくれなかった。	3 年間が終了した年に教職を続けられるよう、教員採用試験に向けて勉強中。
63	Belaspura Nepali		1993/6/28	Surkhet	既婚 (1人)	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：全員が登校している。	・活用：絵、折り紙とゲームをいくつか教えた。 ・成果：これらの方法を使った後、子どもたちの学習意欲が増した。 ・課題：困難はなかった。	女性省の公務員に応募しようと考えている。
64	Bipana Nepali		1995/4/8	Pyuthan	未婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：全員が登校している。	・活用：パネルシアターでアルファベットを教え、算数ゲームでフラッシュカードを使用。歌も歌った。 ・成果：パネルシアターやフラッシュカードを使うと生徒の覚えがいい。 ・課題：困難はなかった。	JNFEA のサポートの後もこの仕事を続けられるように、一生懸命仕事をしている。
65	Chhaya Kumari Saud Majhi		1993/11/17	Dailekh	既婚 (1人)	主婦	・出席状況：少女たちは全員入学するが、大半は、家事労働のため登校は不定期である。 ・働きかけ：親を訪問した。 ・結果：毎日登校させるのはむずかしかった。理由は、貧しさゆえ子どもの労働をあてにしているからである。	・活用：折り紙やゲームを試みた。 ・成果：生徒たちは喜び、もっと学びたがった。また、学校生活に活動的になった。他の先生たちも協力的だった。	何らかの分野で自立した女性になりたい。
66	Laxmi Dhami		1996/3/19	Darchula	未婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：全員が登校している。	・活用：低学年に絵の描き方を教えたり、身体を使ったゲームをやった。 ・成果：子どもたちは新しいことを学んで喜んだ。 ・課題：困難はなかった。	教員免許をとれるように一生懸命勉強中。

67	Laxmi Pujara		1996/10/28	Bajhang	既婚	小学校教師非正規雇用(JNFEA)	・出席状況：全員が登校している。	・活用：パネルシアターを教えた。算数の手法も試みた。 ・成果：生徒が学びやすかった。 ・課題：困難はなかった。	教員採用試験に向けて一生懸命勉強中。
68	Radha Kumari Awasthi		1995/8/3	Dadeldhura	既婚	大学生	・出席状況：全員が登校している。	・活用：毎週、絵を教えた。時々はスペリングコンテストも行った。 ・成果：子どもたちは新しいことを学べて喜んだ。彼らは学んだことを親に見せ、親たちは私を賞賛した。 ・課題：困難はなかった。	教員採用試験に向けて一生懸命勉強中。
69	Shivalaxmi Malla		1996/9/22	Banke	未婚	（2019年教員採用試験に合格）	・出席状況：大きな問題は早婚である。試験に合格できないような劣った生徒の大半は 14 ～ 15 歳で結婚する。 ・働きかけと結果：このような生徒と話し、結婚後も登校させるようにした。また、何人かの少女には奨学金や教材を提供した。	・活用：ときどきピアニカを演奏して童謡を歌い、授業を楽しくした。 ・成果：楽しい授業の後、生徒たちは私といることが心地よい様だった。 ・課題：他の教師はこれらの活動にあまり協力的でなかった。	
70	Sumitra Rana		1996/4/13	Gorkha	既婚	（2019年中学校教員採用試験に合格）	・出席状況：全員が登校している。	・活用：音楽と歌を活用。UNICEFが折り紙用の紙をくれたので、動物や色を覚えるため、折り紙もいろいろ教えた。 ・成果：子どもたちが喜ぶので、他の教師も最近、同じような授業をしている。 ・課題：困難はなかった。	
71	Amrita Rokaya		1996/10/22	Mugu	未婚	小学校教師非正規雇用 （JNFEA）	・出席状況：親は皆、娘を学校へ登校させている。	・活用:ピアニカ、パネルシアター、童謡を教えた。 ・成果：これらの活動により、生徒たちは今までより学ぶ気持ちが出てきた。 ・課題：困難はなかった。	教師を続けること。
72	Anita Kumari Malla		1996/4/30	Kalikot	既婚	小学校教師非正規雇用 （JNFEA）	・出席状況：親は皆、娘を学校へ登校させている。	・活用；身体を使ったゲームや、ボードを使った算数の手法、童謡を教えた。 ・成果：これらの活動により、生徒たちは毎日登校するようになり、今までより学ぶ気持ちが出てきた。 ・課題：困難はなかった。	教職を続けること。

73	Hira Mishra		1997/8/20	Darchula	既婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：親は皆、娘を学校へ登校させている。	・活用：身体を使ったゲームや、ボードを使った算数の手法、折り紙を教えた。 ・成果：これらの活動により、生徒たちは毎日登校するようになった。 ・課題：困難はなかった。	教員採用試験に合格すること。
74	Jayanti Chand Thakuri		1997/11/3	Bardiya	未婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況と働きかけ：Madish の子どもたちが学校に来るよう応援している。	・活用：折り紙や英語のアルファベットのパネルシアター、絵を教えた。 ・成果：生徒たちは私の授業に喜び、今までより学ぶ気持ちが大きくなり、私に親近感を感じるようになった。 ・課題：困難はなかった。	教師を続けること。
75	Kabita Upadhayaya		1997/10/25	Kailali	既婚	小学校教師非正規雇用(JNFEA)	・出席状況：全生徒が毎日登校している。	・活用：パネルシアター、童謡、ボードを使った算数の手法を試みた。 ・成果：これらの活動により、生徒たちは私の授業に引き込まれた。音楽の授業は低学年の生徒たちを楽しませた。 ・課題：音楽がうるさいといわれた。	いずれかの分野で正規雇用の職に就くこと。
76	Karuna Pal		1997/7/17	Kanchanpur	未婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：親は皆、娘を学校へ登校させている。	・活用：ネパール語のアルファベットを教えるためパネルシアターを使い、身体を使ったゲームも試みた。 ・成果：生徒たちは今までより学ぶ気持ちを強め、私に親近感を感じた。 ・課題：困難はなかった。	教員免許をとること。
77	Sabina Gurung		1995/6/8	Gorkha	未婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：親は皆、娘を学校へ登校させている。問題は、娘たちが家事労働のため、毎日登校しないこと。 ・働きかけ：毎日学校へ来るように娘たちを励ました。	・活用：パネルシアター、折り紙、絵を試みた。 ・成果：これらの活動により、生徒たちは今までより学ぶ気持ちを強めた。 ・課題：困難はなかった。	教員免許をとること。
78	Shrijana Kumari Bohora		1997/1/23	Baitadi	既婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	—	—	できるだけ長く教職を続けること。

79	Soniya Rana Magar		1996/10/27	Jajarkot	未婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：親は皆、娘を学校へ登校させている。	・活用:身体を使ったゲームや、ボードを使った算数の手法、絵も教えた。 ・成果：これらの活動により、生徒たちは私に親近感を感じ、学びたいという気持ちを表した。 ・課題；困難はなかった。	教員免許試験に合格することと勉強を頑張ること。
80	Tirsana Nepali		1996/4/3	Pyuthan	既婚	小学校教師非正規雇用 (JNFEA)	・出席状況：少女たちは全員出席している。	・活用：子どもたちが興味を持ったので、規則的に図工の授業をしている。身体を使ったゲームも実施。 ・成果：生徒たちは積極的にこれらの活動に参加してくれる。 ・課題:支持してくれる教師は一人。	教員免許をとること。

ご支援、ご協力ありがとうございます

2019年5月より2020年6月末まで、ご寄附、ご寄贈いただいた方々のお名前を掲載させていただきます。
ここでは　正会員･賛助会員の会費を除いた､教育里親（里親基金を一括でいただいている方も含みます)、ご寄附、ご寄贈の方に限らせていただきましたが、そのほか皆さまから、いろいろな形でのご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。　(敬称略)

青木睦子　阿出川俊夫　阿部和代　井坂眞智子　石井光恭　井上恵司　岩谷榮子　海野和三郎　大野清子　小黒宏聡　織田真理子　金井隆行　刈谷もと子　ケアンズ多佳子　古宇田亮順　古賀衛　国際ソロプチミスト大阪ーいずみ　国際ソロプチミスト大阪ーなにわ　国際ソロプチミスト長浜　国際ソロプチミスト新潟　児玉元晴　小林典子　小柳清志　塩田有子　島田仁郎　城宏輔　菅沼一夫　鈴木美香子　全国退職女性校長会（梅の実会）　大和由利子　高瀬純子　竹田智恵子　田中綾子　田中雅博・悦子　寺井早苗　中村泰子　永山洋子　根森健・桂子　馬場桂子　福井直矩　古澤恵子　古橋源六郎　牧野剛　町田紀子　松波勝弘　宮坂洋子　森豊吉　山下威士　山下泰子　ラムロ募金（今村美知子）　若井悦子　脇田多見子　和田啓子

＊助成金：独立行政法人　国際協力機構（JICA）

編集後記

・ニュースレター編集を担っていた、元気で活発だった新井場副理事長が２月、突然病に倒れました。写真は、２月１日、大泉資料室にてニュースレター発送作業の様子です。この時まで元気でしたのに・・・。心配しましたが、幸い今は順調に回復に向かい自宅療養中、ホッとしています。・この数カ月のスティ・ホームは、PC との睨み合いの日々でしたが、やっと皆さまにこのニュースレターをお届けすることができます。・JNFEA は予定通り、ネパールでの活動を終了しましたが、新型コロナ・ウイルスの影響で、今は海外への渡航もままなりません。Manju さんの報告にもあるように、やはりネパールでもその影響は大きく、特に今年は、2020 ネパール観光年「Visit Nepal 2020」として観光客 200 万人突破を目指すという目標を掲げていましたが、今は中止の状態です。･そんな中、Manju さんのご結婚は、私たちにとって明るくうれしい、おめでたいニュースでした。心からお二人のお幸せをお祈りします。（佐伯律子）

郵便振替口座　00130－4－370983　（口座名）NPO法人日本ネパール女性教育協会

銀行口座　三菱UFJ銀行　大泉学園支店　普通0571552
（口座名）特定非営利活動法人　日本ネパール女性教育協会

個人会員：3,000円､個人賛助会員：10,000円､学生会員：1,000円、法人賛助会員：50,000円

（いずれも年会費）里親基金：月額5,000円、年間60,000円（ただし、月額1,000円より可）

特定非営利活動法人日本ネパール女性教育協会（JNFEA）

理事長：山下泰子

本　部：〒113-8668　東京都文京区向丘 1-19-1　文京学院大学

ポカラ寮：Sakura Dormitory, Kanya Campus Pokhara, Nadipur, Pokhara, Nepal
P.O Box 192　Tel:977-61-541649

事務局長：岩谷榮子 〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-24-1-1001　Fax 03-6222-3824

E-mail: jnfea3@yahoo.co.jp　ホームページURL:http://www.jnfea.net/

編集委員：新井場貞子　佐伯律子　岩谷榮子　白柳彰子　　さし絵；山下紗衣